

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501503		
法人名	株式会社 東北産業		
事業所名	グループホームよこはま荘		
所在地	〒039-4142 上北郡横浜町字上イタヤノ木438-5		
自己評価作成日	令和6年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会	
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号	
訪問調査日	令和6年9月20日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四方を海や山に囲まれ、自然豊かな環境に恵まれた場所にあり、ペランダからは季節が感じられる花や木々の景色をいつでも見ることができます。また、地域に根差した施設作りを念頭に、毎年地域の方々との交流運動会や夏祭り等を開催していましたが、今年も残念ながら、地域の方々との交流を図ることはできませんでした。それでも、両棟の交流を図れるよう、お花見ドライブや施設内での交流運動会、敬老会等の行事や、団子やうどん、ケーキ作り等を企画し、両ユニットの交流を図っています。利用者様には受容、傾聴、支援の基本を忘れることなく、施設の理念を毎朝復唱してしっかりと胸に刻み、安心して住み慣れた地域で過ごしていただけるように努めています。また、家族様の希望があれば、看取りも行っています。災害時にはリビングの窓から、スロープですぐに外に避難できるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に法人の有料老人ホームとデイサービスがあり、夏祭りや交流運動会の他、運営推進会議や避難訓練も合同で開催し、協力体制を築いている。

コロナ禍以降、行事に地域住民を招待するのは難しい状況だが、中学生ボランティアの受け入れ等、可能な範囲での取り組みを再開し、町主催の他職種協働の研修会や認知症地域ケア会議には毎回出席して、ケアの向上に繋げている。

「寄り添い、心豊かに、博愛の精神で、まーるく過ごせるようにお手伝いします」というホーム理念を掲げ、職員は利用者に寄り添ったケアを目指し、重度化してもできるだけ住み慣れた場所で、安心して過ごしていただけるよう、協力医療機関とも連携しながら、支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の意見を取り入れた理念である。玄関ホールに提示し、朝の申し送りの際、理念を唱和して共有を図っている。	理念を作成する際に、どのような暮らしをした いか利用者の意見を聞き、「まーるく過ごせるように」という表現を取り入れている。理念は見やすいように拡大し、玄関や各ユニットのホールに掲示している。また、毎朝両ユニット合同の申し送りで唱和し、職員間で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍の影響にて交流は図れていない。	町内の清掃活動に職員が参加する等、ホーム開設時から地域との交流を大切にしている。コロナ禍前は、ホームの夏祭りや交流運動会に地域住民を招待したり、近隣の保育園児や老人クラブの訪問も受け入れていた。今年度は感染状況に配慮しながら、町のお祭りを見に行き交流の機会を作る等、できる範囲での取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協力し、予防教室を計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者様や職員の状況等、資料にて報告している。ご意見用紙も添え付け、意見も求めている。	メンバーには開催案内を郵送している他、電話でも声がけし、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、ホームの取り組み状況等を報告している他、避難訓練や備蓄品等、様々な議題を取り上げており、メンバーから意見や提案をいただき、業務に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の地域包括支援センターが中心となり、認知症地域ケア会議に参加し、他事業所との意見交換を図っている。互いの取り組みについて、話し合いも行っている。	役場には毎月入居状況を報告したり、自己評価及び外部評価結果を届け、アドバイスをいただく等、日頃から連携を図っている。また、他職種協働の研修会や認知症地域ケア会議にも毎回出席し、様々な情報を得たり、他事業所と意見交換を行い、ホームの取り組みに反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や委員会を通して、身体拘束について話し合う機会を設けており、周知徹底を図っている。身体拘束マニュアルの整備をし、いつでも閲覧できるようにしている。	身体拘束の指針やマニュアルがあり、毎月の職員会議でホームの現状確認を行っている他、定期的に勉強の機会を設け、職員の理解を深めている。全ての職員が身体拘束は行わない姿勢で取り組んでおり、対応に行き詰まりそうになった時は早めに交代するよう、申し合わせている。また、玄関は夜間以外施錠せず、外出傾向を察知した時は一緒に敷地内を散歩したり、近くの店に買い物に行く等している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回、職員にアンケートを実施している。全体会議にて高齢者虐待防止委員会より、研修や意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業と成年後見制度の違いについて学べるよう、資料を準備し、閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に管理者が家族様に対し、理解していただけるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	正面玄関に意見箱を設置している。面会時には状況報告を行い、意見や要望を話しやすい環境を整えている。	利用者とゆっくり話す時間を作るように心がけ、意見や要望を聞いている。家族には、毎月担当職員から「生活状況報告」を送る他、年4回発行のホーム便りでも利用者の暮らしぶりを報告している。また、面会時にも近況を報告しながら、気兼ねなく意見等を話してもらうように働きかけており、意見が出された時は職員会議やユニット会議で話し合い、対応策を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場で、福祉部会議の報告や会社の運営面、方針等を報告している。運営推進会議の報告や推進委員様の意見等の報告も行っている。	年2回、職員の自己評価を実施している他、管理者との個別面談も行い、職員の意見等の把握に努めている。内容によっては法人の会議で報告し、対応を検討している。また、毎月の職員会議やユニット会議、休憩時間等にも職員同士で意見交換をしたり、相談をしながら、ストレスをため込まずに働けるよう、お互いに協力し合う体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回(8月、12月)に自己評価を行っているが、給料の水準は個々の能力に反映されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修を活用している。月1回の内部研修を実地し、知識、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町役場が主催の他職種協働の研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とのコミュニケーションを多く取り入れ、尊重し、共感を意識することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始段階では家族様の不安も多いため、電話や手紙を通して、情報共有をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様より情報の聞き取りを行い、性格やこだわり、できる事、できない事を見極め、その人らしさを重視したサービスを心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を引き出しながら、やりがいへと繋げる支援を行い、協力し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の理解や協力が必要不可欠であることを伝えて、協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町のイベントや行事は、コロナの状況に合わせて参加している。	玄関先で飛沫防止シートを挟んで面会していただいている他、オンライン面会もできる環境を整えている。希望があれば、電話のやり取りをお手伝いしている他、馴染みの美容院への送迎等も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が協力、分担し合える物作りやレクリエーションを行い、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で顔を合わせた時等にお声がけをし、気軽に相談できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して、思いや希望を把握している。また、困難な場合は、表情より意図を読み取り、対応している。	利用者との日々の会話から、思いや希望を把握するように心がけている。また、家族からも面会時や電話連絡の際に状況を伝え、情報やアドバイスをいただいている他、職員の気づきを話し合い、個々に合った対応を工夫しながら、意向を把握できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や家族様からの聞き取りにて、生活環境を把握している。また、情報提供表を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムに合わせた対応を心がけている。介護日誌や経過記録も活用し、ユニット会議で報告の場を設け、共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様より聞き取りし、ユニット会議、カンファレンスを行い、プラン作成に反映させている。	利用者と家族の意見や希望を基に、ユニット会議やカンファレンスを行い、必要な時は主治医や訪問看護師からも助言もいただいて、一人ひとりの希望や現状に合った個別の介護計画を作成している。介護計画は6ヶ月の期間を設定し、モニタリングや評価を行っている他、状態の変化が見られた時は、随時カンファレンスを行い、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別の記録を活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の記録や職員間のコミュニケーションにて、現状課題を分析し、カンファレンスを行い、素早い対応が図れるよう、取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診にて、適切な医療が受けられている。	月1回、協力医の往診がある他、通院できる利用者は、職員がそれぞれの希望する医療機関への受診支援を行っている。また、状態に変化があった時は、すぐに電話で家族に報告し、必要な時は家族にも同行していただいている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が体調管理に来ており、相談やアドバイスが受けられる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室を通じ、入院中の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、医師や家族様で話し合いの場を持ち、方針を共有した上で契約を交わし、看取りを行っている。	「身体機能が重度化した場合の対応に係わる指針」の中に、ホームで対応可能な範囲を明記し、入居時に家族に説明して同意をいただいている。希望があれば、協力医療機関の医師や看護師との連携のもと、家族の協力もいただきながら、看取り介護に対応していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は2年に1回救急救命講習を受講し、緊急時の対応ができるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は避難訓練を実地している。また、町主催の原発事故の避難通報訓練の実施や、施設での地震を想定した避難訓練も行っている。	年2回、消防署立ち合いで、敷地内にある法人の施設と合同で避難訓練を行っている。また、防災設備の点検は業者委託で行い、災害時の備蓄品として、飲料水と日常の食材を多めにストックする他、カセットコンロや石油ストーブを準備している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけず、日々、敬いの気持ちを持ち、対応にあたっている。特に、デリケートな介護部分である排泄や入浴に関しては、言葉遣いに注意を払っている。	尊厳を大切にし、声がけの仕方や言葉遣いに注意しながら、利用者一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけている。ホームでは、職員一人で抱え込まないよう、日頃から協力し合う体制である他、接遇やプライバシー、個人情報の取り扱い等に関するマニュアルを作成し、職員会議の中で振り返る機会を設ける等、より良いサービス提供に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活にて、コミュニケーションを大切にしており、本人の思いや希望に対し、話しやすい環境を整えている。難しい場面では、二者選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お声がけし、本人の能力や希望に沿った支援を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容、電気シェーバー、入浴時に爪切りや耳掃除を行い、清潔を保持している。2ヶ月に1回、馴染みの床屋が来荘している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや郷土料理作り等、一緒に参加して行っている。食事の盛り付けや茶碗拭きも日課となっている。	禁忌食には代替食を提供している他、季節毎の行事食も工夫を凝らし、利用者が楽しく食事できるように取り組んでいる。職員は利用者の食事状況を注意深く見守り、必要なサポートを行っている。また、利用者の状況に応じて、食事の下拵えや盛り付け、茶碗拭き等を手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は普通食からミキサー食まで対応し、禁食には個別に調理して対応している。水分量は摂取表にて確認し、本人の嗜好に合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや舌ブラシ、または口腔ガーゼを使用して、清潔保持を図っている。歯磨きコップは毎日消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、お声がけを行っている。	利用者個々の排泄状況を記録し、パターンに合わせたトイレ誘導を行う他、仕草や表情を観察しながら、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。また、状況の変化が見られた時は随時職員で話し合い、家族とも相談し、本人の意向を確認した上で、状況に応じた排泄支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促せるよう、1日1回、乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回以上の入浴を行っているが、希望に応じて対応している。	基本的に週2回は入浴できるよう、利用者の状況を見ながら声がけしている。入浴の拒否がある時は無理に勧めず、翌日の入浴に変更したり、一番風呂等の希望にも沿えるよう、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた寝具の提供や温度管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に変更が生じた場合は、申し送りや日誌、処方箋にて確認、把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を活かした軽作業やレクリエーションを提供し、支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の頻度は減っているが、近隣の買い物や外食へも家族様の協力を仰ぎ、行っている。	天気の良い日は敷地内を散歩したり、玄関前の花壇や周囲の景色を見て気分転換を図っている。また、感染症状況を見ながら、季節毎の花見ドライブを計画し、安全に外出を楽しんでもらえるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院時や外出支援時に個人の好む物を選び、購入されている。また、個人でお金を所持している方に対しては、本人の購入希望にて、施設近くのスーパー等で職員が購入し、本人よりお金を受け取っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持している方は、自ら家族様へ連絡をしている。また、家族様宛に手作り絵葉書を使用し、本人の思いを込めて届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に制作した作品を、季節毎に掲示している。	開設時からの使い込まれたソファや食卓テーブル等があり、共有空間は家庭的な雰囲気である。また、ホールや廊下には、利用者と職員が一緒に作成した、季節に合わせた作品がたくさん飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテレビを設置しており、自由に過ごしてもらえよう、環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好む物、思い出の品や家族様が持参されたお花等を飾っている。	利用者がホームでも自分の家のように過ごせるよう、自宅に置いていた物や使っていた物の持ち込みをお願いしている。入居後も本人と相談しながら、手作りの作品や写真を飾る等し、個々の好みや生活パターンに合わせて、自分らしい生活ができるよう、居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように印を掲示し、ホール内には手摺りを設置している。また、利用者様の状態に合わせ、居室場所を決めている。		